

ミズーリ州での調査 ～ パルモア、ウェンライト、ヴォーリス ～



池田裕子(学院史編纂室)

創立125周年を記念し、同窓会が実施した「創立者W. R. ランバス博士の足跡を巡る旅～アメリカ南部編～」(2013年10月2日～9日、团长：辰馬勝同窓会副会長)に合流し、ミシシッピ州とテネシー州を回った後、ナッシュビルからニューヨークに発つ一行を空港で見送り、私はミズーリ州に向かいました。

ミズーリ州では、同窓の田口壮選手が活躍したカーシナルスの本拠地セントルイスとカンザスシティを拠点に、パルモア(W. B. Palmore, 1844-1914)、ウェンライト(S. H. Wainright, 1863-1950)、ヴォーリス(W. M. Vories, 1880-1964)等の関係地を訪ねました。カーシナルスと言えば、球団誕生間もない時期にセントルイスで学生生活を送ったウェンライトはファンだったに違いありません。ウェンライトが関西学院で教えた野球は、ミズーリ州にそのルーツがあると言えるのではないのでしょうか。

どこまでも続くともろこし畑とミズーリ・ワルツのリズムが脳裏に焼き付いた4日間でした。

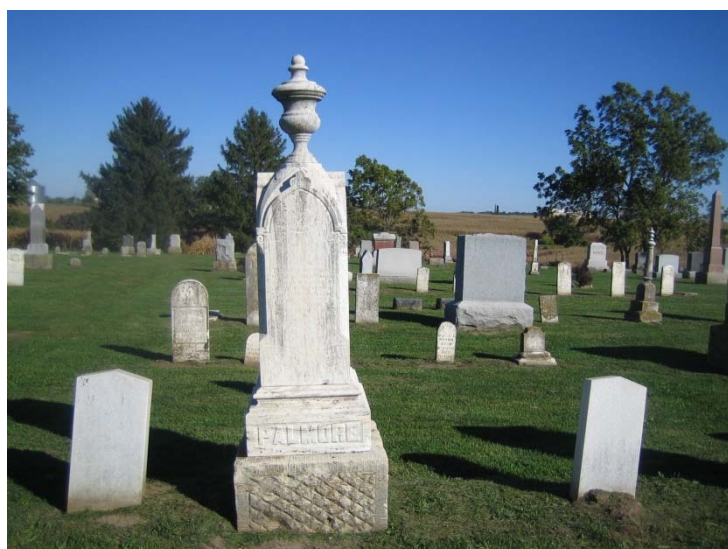


W. B. パルモアの墓 (ミズーリ州マルタ・ベンド)

ミズーリ州訪問を決めたのは、関西学院創立前史に大きな役割を果たしたパルモアがミズーリ州の牧師だったからです。また、上海でJ. W. ランバスから頼まれ、南メソジスト監督教会の日本伝道開始にあたり、一家と共に来神した通訳鈴木愿太の留学先がミズーリ州であったことも理由の一つでした。両者の関係については、「ミズーリ州のW. B. パルモア」(広報誌『K. G. TODAY』281号、2014年4月)で紹介しましたので、ご覧ください。

しかし、ミズーリ州には知人もいないし、土地勘もありません。その時、アン・ケネディ(Ann Kennedy)さんのことを思い出しました。戦後間もない時期に、関西学院大学文学部で教えておられたお父様(Francis B. Belshe)に関する情報を求め、2012年秋に問い合わせられて来られた方です。メールのやり取りだけでお会いしたことはありませんが、確かミズーリ州にお住まいだったはず。ミズーリ州訪問を考えていることをお知らせすると、「兄はセントルイス、私はカンザスシティに住んでいます。両都市を拠点にすれば、州内どこでも簡単に車で行けます。ぜひ私たちの家に泊ってください」と、ご親切なお申し出を受けました。

そこで、関西学院とミズーリ州の関係を説明し、パルモア牧師の名を出すと、「パルモア姓は夫の親戚に大勢います」との反応がありました。そして、直ちにご主人の一族が眠る墓地Little Grove Cemeteryに車を走らせてくださったようです(カンザスシティから約2時間)。そこにW. B. パルモアの墓碑【写真下中央】があることを確認されたアンさんは、「夫ボブの曾祖父の祖父がW. B.



パルモアの祖父でした！」と大興奮のメールを送って来られました。パルモア牧師は生涯独身を通したので、直系の子孫はいません。遠い親戚とは言え、関西学院にとって恩あるパルモアの縁者にミズーリ州でお会いできることになるとは、思いも寄らぬことでした。

10月8日、ファイエット(Fayette)のセントラル・メソジスト大学を訪問した帰り、マルタ・ベンド(Malta Bend)にある墓地に立ち寄りしました。パルモアは南北戦争で戦っているため、兵士であったことを示す小さな墓標もありました。





S. H. ウェンライトが少年時代を過ごした地のメソジスト教会 (ミズーリ州モンティセロ)

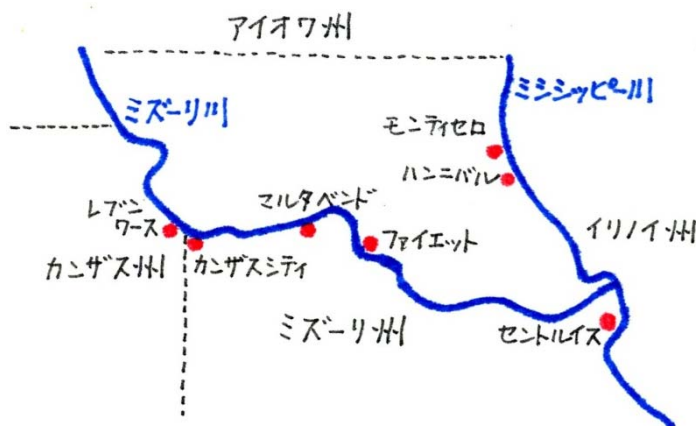


10月7日朝8時半にセントルイスを出発し、ミシシッピー川のイリノイ州側を北上しました。キャンパスヴィルで車ごと渡し船に乗り、川を超えると、ミズーリ州ルイジアナでした。午後1時前、文豪マーク・トウェインの故郷ハンニバル(Hannibal)到着。アメリカ文学の知識がない私でも、代表作『トム・ソーヤの冒険』は知っています。先を急ぐので、洞窟ツアーも博物館見学も諦め、昼食だけとってさらに北上。人口わずか100人足らずのモンティセロ(Monticello)に到着したのは午後3時前でした。

モンティセロは、N. W. アトレー初代普通学部長の後任を1891年から1906年まで務めたウェンライトが少年時代【写真は10~12歳頃】を過ごした村です。『ウェンライト博士伝』(初版1940年、再版1963年)によると、悪戯好きの腕白坊主だったようです。今も旧校地原田の森に残る唯一の建造物ブランチ・メモリアル・チャペルの建築資金を集めるため、W. R. ランバースと共に尽力したのがウェンライトでした。

村の中心にメソジスト教会がありました。日本から来たことをコートハウスで告げると、職員が鍵を開け、中を見せてくださいました。

モンティセロを後にしたのは4時過ぎでした。そこからカンザスシティまで約4時間のドライブでした。トレントン(Trenton)辺りで西の空低く、美しい光を放つ三日月と金星が現れました。そこから先は、三日月が私たちの道標になりました。

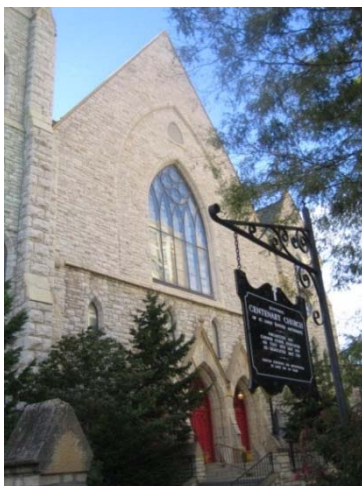


S. H. ウェンライトが医学校在学中通っていた百年記念メソジスト教会 (ミズーリ州セントルイス)

1884年、セントルイスのミズーリ医学校(Missouri Medical College)に入学したウェンライト【右下は、1924年頃、

吉岡美国第2代院長とブランチ・メモリアル・チャペル前で撮影】は、2年後の1886年に医学博士(MD)の学位を得て卒業しました。当時の記録を所蔵するワシントン大学ベッカー医学図書館(Becker Medical Library of Washington University)に問い合わせたところ、医学校入学に学部卒業の必要はなかったそうです。医学校で2年間の課程を修めると、医学博士の試験を受けることができました。医学生のお多くは、入学までに指導医師の下で医術の研鑽を積んでいました。ウェンライトの場合、既に開業していたC. F. ウェンライト(兄)が指導医師だったそうです。

医学生だったウェンライトが通っていた百年記念教会(The Centenary Methodist Church)を訪ねたのは、10月6日の夕刻でした【左】。





W. M. ヴォーリズの生家 (カンザス州レブンワース)

10月9日午後、カンザス州レブンワース (Leavenworth)を訪ねました。ミズーリ州カンザスシティを出発し、ミズーリ川を渡るとカンザス州に入ります。1時間弱のドライブでした。

レブンワースにはヴォーリズの生家が今も残っています【右上は側面、右下は正面から撮影】。母方の祖父ウィリアム・メレルの家で生まれたヴォーリズは、7歳までそこで暮らしました。これが縁となり、レブンワース市と滋賀県近江八幡市は姉妹都市提携を結んでいます。

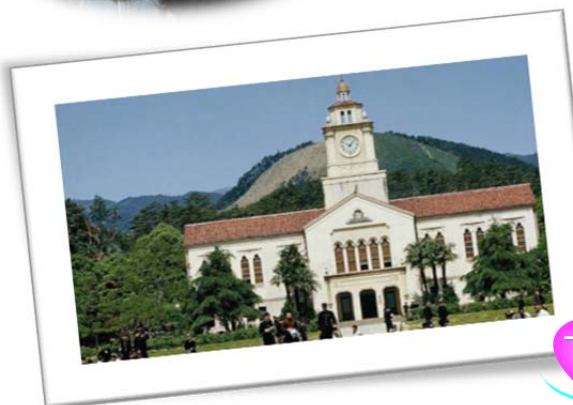
現在、この生家はヴォーリズ家と関係ない方が住んでおられますが、ヴォーリズの生家であることを示す銘板が立っていました【正面から撮影した写真右下に見える。左上はその部分の拡大】。

レブンワースは、刑務所のある街としてアメリカでは知られています。C. J. L. ベーツ第4代院長の故郷ロリニャルにはオンタリオ州最古の刑務所がありました。二人が日本で出会った時、互いの故郷の共通点が話題になったかも知れません。



ミズーリ州でお世話になったアンさんご夫妻【右】とその兄ボブさんご夫妻【左】。

ご兄妹は、お父様が文学部で教えておられた1953年から翌年にかけて、関西学院の宣教師館（外国人住宅7号館）にお住まいでした。アンさんとはご両親が残された記録（書簡、日記、写真等）をブログで公開されています(www.annbkennedy.blogspot.com)。また、本年1月には、日本滞在中に撮影された写真を関西学院にご寄贈くださいました。その多くはカラースライドで、60年前の関西学院が色鮮やかに蘇ります【下3枚はその一部】。大学博物館開館時の展示でも数点使わせていただく予定です。



『学院史編纂室便り』第39号 (2014年6月2日)
関西学院 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原 1-1-155
TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462
<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>
4月20日よりURL 変更!